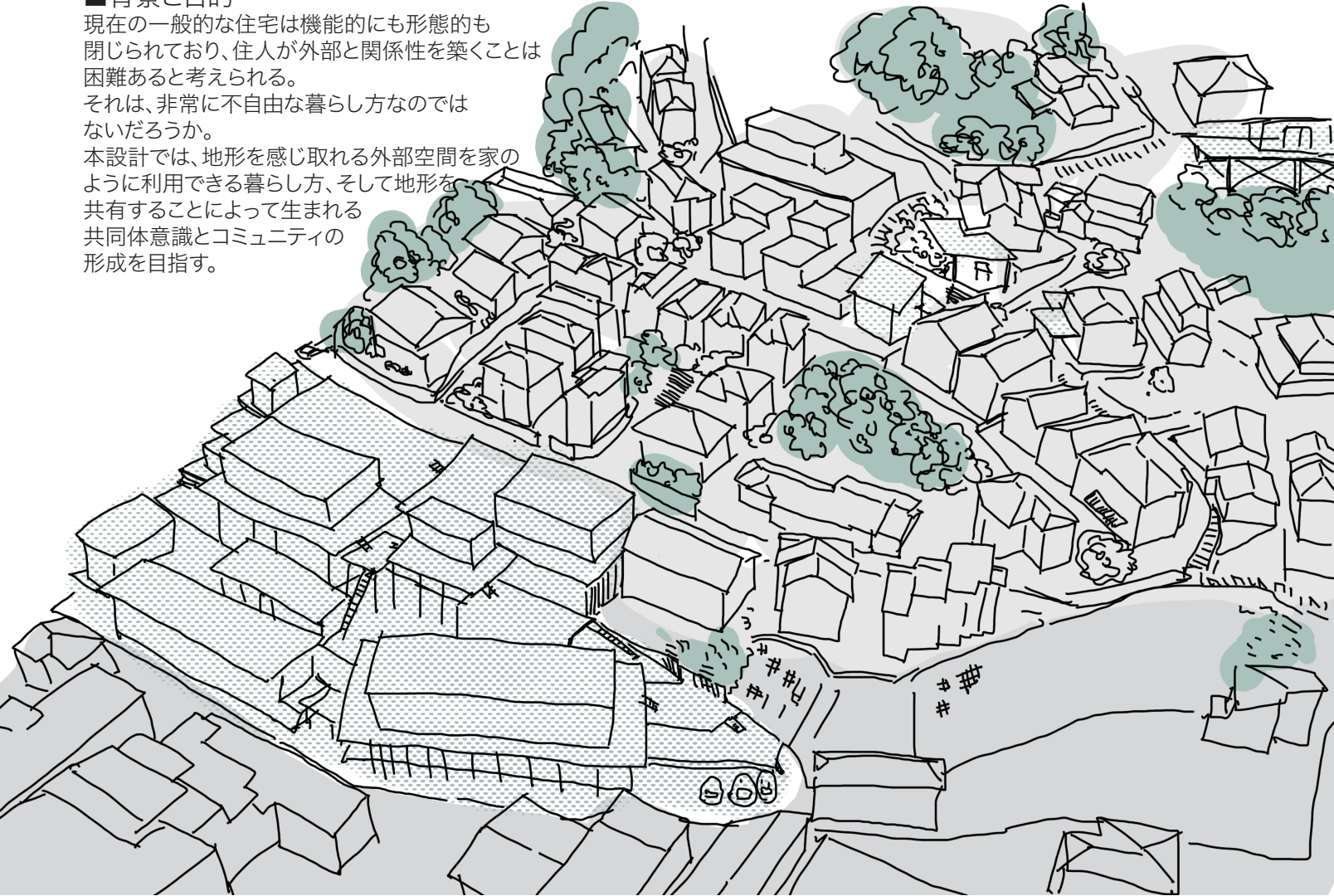


■背景と目的

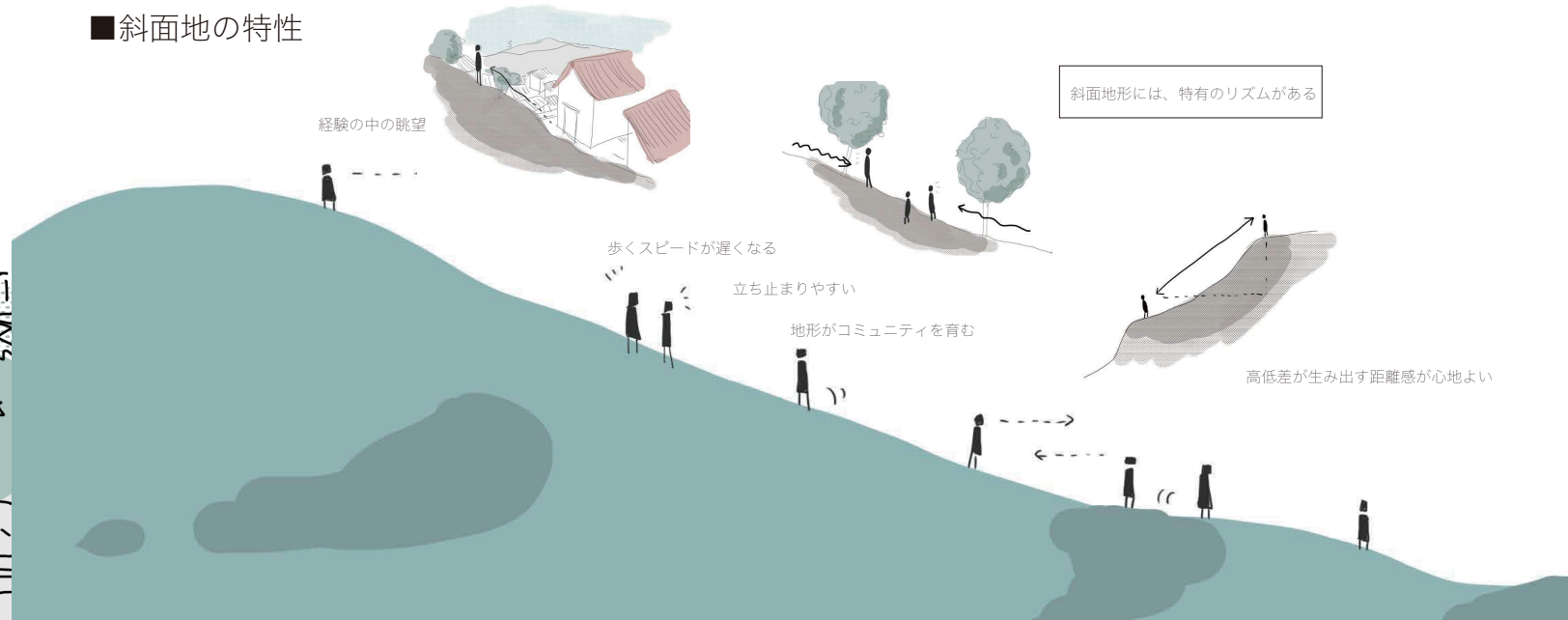
現在の一般的な住宅は機能的にも形態的にも閉じられており、住人が外部と関係性を築くことは困難あると考えられる。

それは、非常に不自由な暮らし方なのではないだろうか。

本設計では、地形を感じ取れる外部空間を家のように利用できる暮らし方、そして地形を共有することによって生まれる共同体意識とコミュニティの形成を目指す。



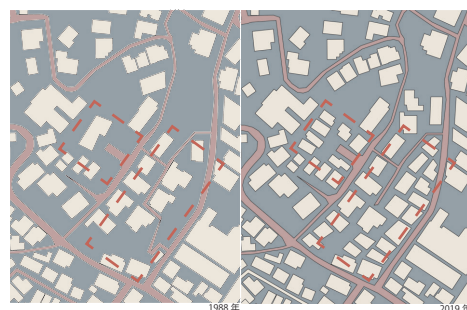
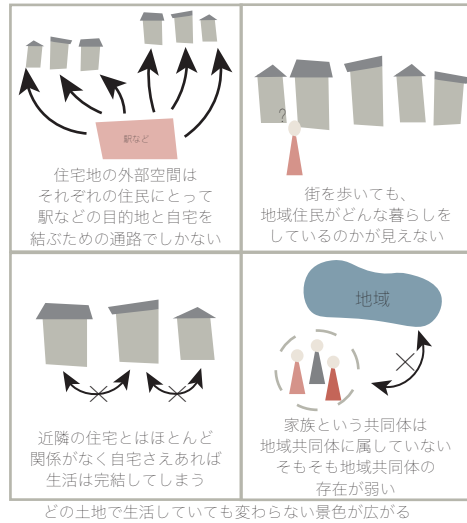
■斜面地の特性



■全体計画

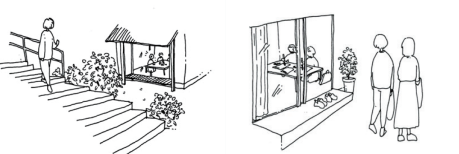
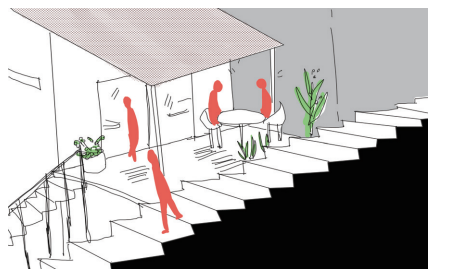
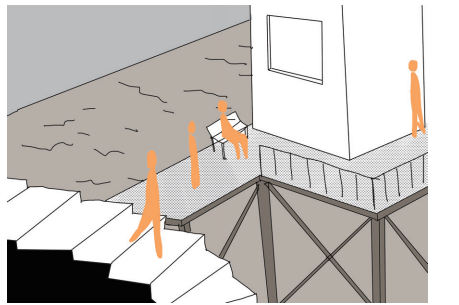
斜面地形の始まりの敷地に新しく集合住宅を設計し、そこから連続していく細道・階段に面する住宅のリノベーション・建て替える場合のプランを計画する。

また、集合住宅内に共有キッチン、ランドリー、託児所などを配置することと、階段に面する敷地に銭湯、食堂などを配置することにより集合住宅内の通路や既存の階段、細道は単なる通路としてではなく、生活動線として利用されるようになる。



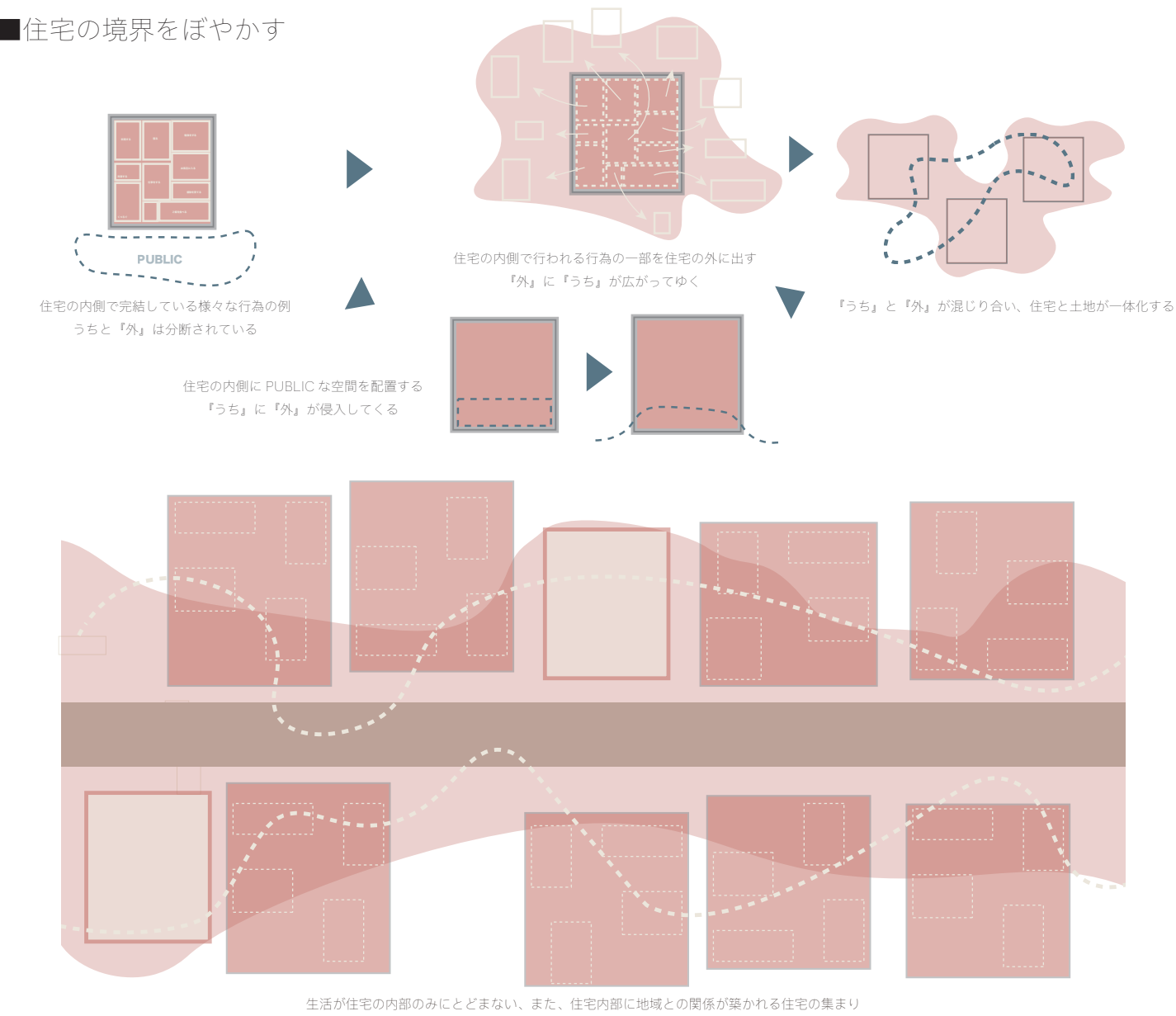
■敷地：横浜市保土ヶ谷区月見台

もともと宿場町の裏山なので、別荘地として開発されてきた歴史から、広めの敷地にゆったりと立ち並ぶ住宅が多かった。しかし、老朽化や空き家化等様々な要因により建てられていた住宅が取り壊され、分譲住宅へと姿を変えた。一つ一つの住宅のスケールは小さくなり敷地に詰め込まれるかのようにして建ち並んでいる。

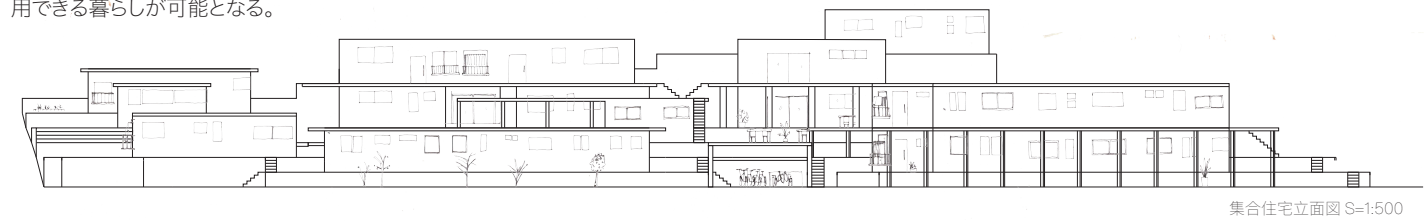


全体配置図

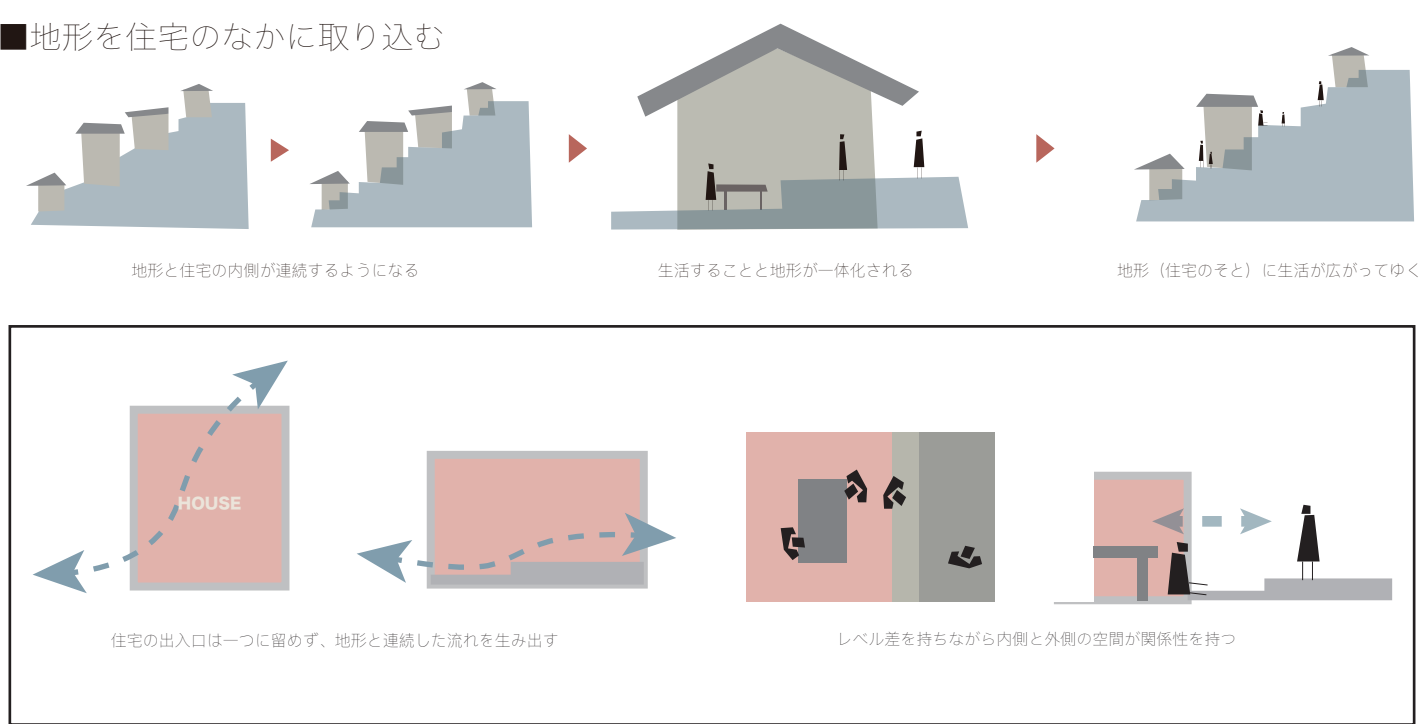
■住宅の境界をぼやかす



敷地内に新しく設計する集合住宅の住戸と既存の住宅のリノベーションもしくは建て替えにおいて、住宅のなかに半公共的な空間を設け、公共的な空間に半私的空間を設ける。半私的空間はコモンスペースとなり、完全に分断されていた住宅のなかと外に中間領域的空間が生まれ、グラデーション的に連続性を持つようになる。また、住宅の中の半公共的空間は、集会所、そろばん教室、ワーキングスペース、ちいさな図書館の空間など住民の選択により、地域に開かれた機能を持つことができる。住宅は家族のためのプライベートな空間から地域との関係性を持つための重要な空間へと変化する。他人の家に行ったり、コモンスペースを活用したりすることなどが生活の中に組み込まれることで、自宅だけで完結していた生活から地域全体を生活空間として利用できる暮らしが可能となる。

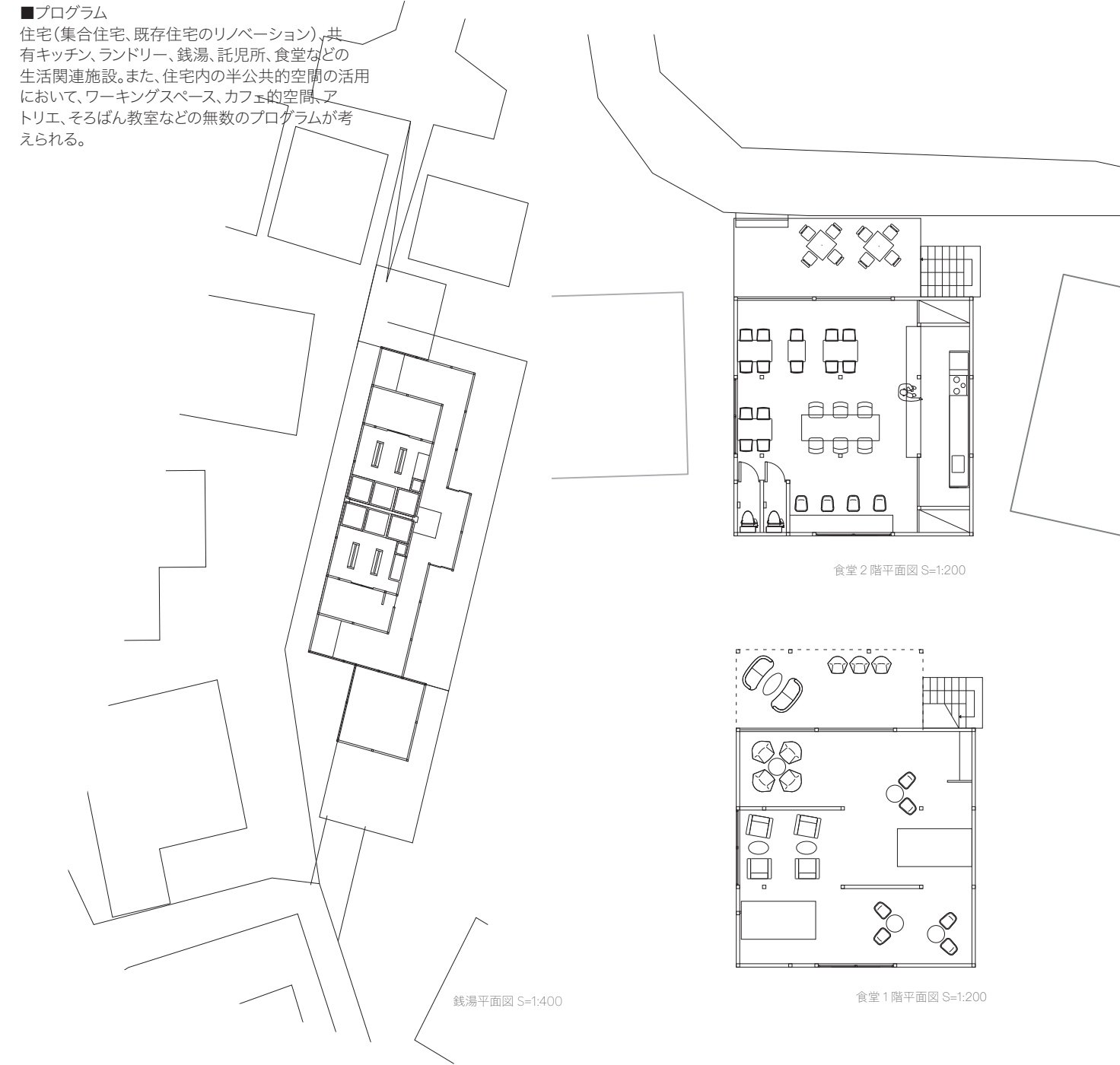


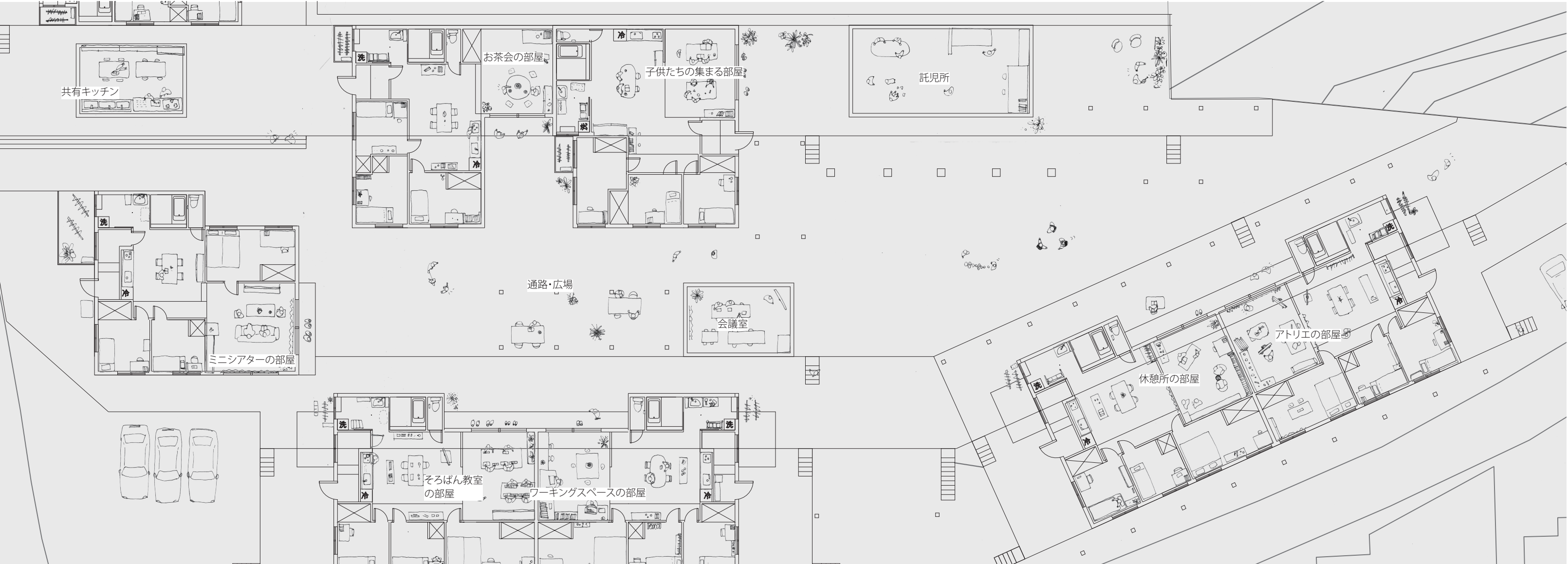
■地形を住宅のなかに取り込む



■プログラム

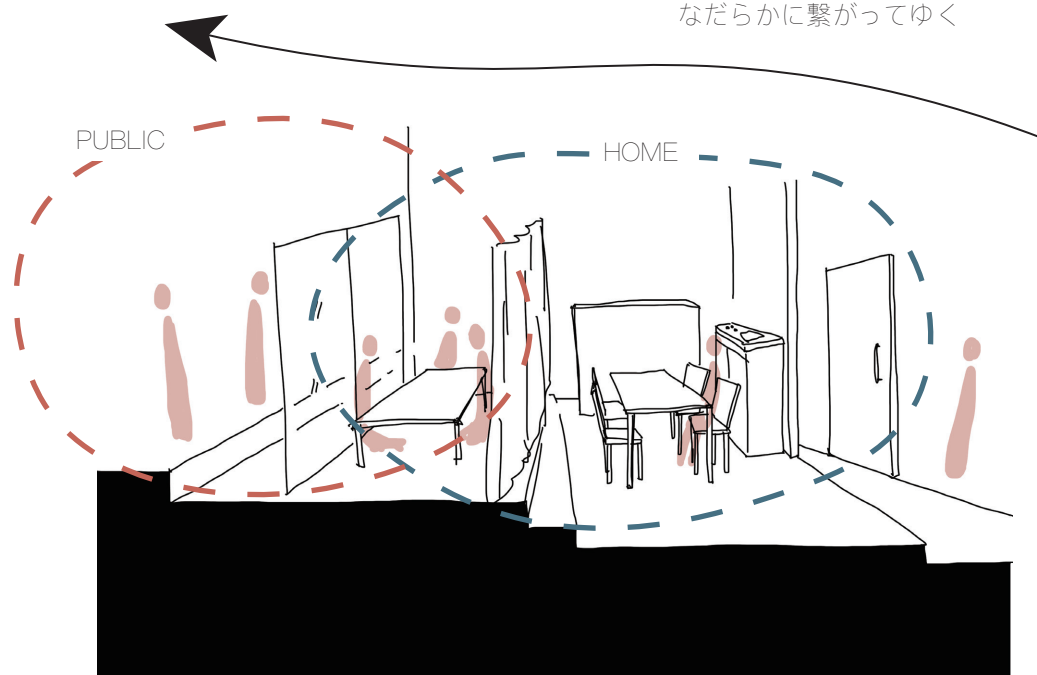
住宅（集合住宅、既存住宅のリノベーション）、共有キッチン、ランドリー、銭湯、託児所、食堂などの生活関連施設。また、住宅内の半公共的空間の活用において、ワーキングスペース、カフェ的空間、アトリエ、そろばん教室などの無数のプログラムが考えられる。





集合住宅平面図(1階 部分) S=1:200

なだらかに繋がってゆく



住居内部イメージスケッチ

仕事や学びのあり方、住宅の形、情報技術の発展など様々な背景が暮らしのあり方の可能性を制限している。確かに、忙しい現代日本の都市部において、地域と関係性を持つような暮らしは困難なことなのかもしれない。しかしながら、暮らしのあり方や理想は人の数だけある。他に選択肢がないから当たり前のように箱型の住宅に引きこもる生活を選択することはあまりに貧しいことではないだろうか。住民にとっての暮らしのあり方の可能性を提案するという意味でも、地域と住宅を連続したものとして考え、地域と関わりを持つことが可能な住宅建築を提案することは地域社会に暮らすすべての人にとって必要不可欠なことだと考えられる。